

院長就任の挨拶

2021年4月より大分医療センターの院長に就任しました、奈須伸吉です。生まれは梨の産地の大分県大分郡庄内町（現由布市庄内町）で、1986年に大分医科大学を卒業しました。縁有ってこの地に赴任し当院勤務は通算24年目になります。昨年までの4年間は副院長を務めましたが、この度、穴井秀明前院長の後を引き継ぎました。専門は泌尿器科で、現在も外来診療を続けています。

昨年度、当院は大分県下最多の新型コロナ感染症患者の受け入れを行いました。その間に2度の院内クラスター発生がありました。患者さんと当院職員や関連医療機関の皆様には大変ご苦労をお掛けしましたが、患者さんのご協力と全職員の努力と辛抱、関係機関のご協力を得て、いずれのクラスターも収束しました。現在は感染症流行第4波の真ただ中で、当院は新型コロナ感染症診療の最前線に立ち、感染患者を多数受け入れて治療しています。同時に、可能な限り救急医療と一般診療も行っており、当院の職員には大変苦労を掛けています。ウイルスパンデミック期は平穏な時代とは違い、医療従事者には目に見えない身体的・精神的負担が掛かります。当院の職員の皆様には、どうかご自身の生活を大切にしてお上手に気分転換をしながら、心に少しでも余裕を持って働いていただきたいです。私も、休日の家庭菜園を楽しみにしています。

今春就任するに当たり、大分医療センターの目標を決めて当院職員に知らせましたのでご紹介します。最初の目標は、「共同体の一員として互いを尊重し思いやる姿勢を持つ。」です。苦しい時期には人と人との分断が起ることがちなのですが、こういう時期だからこそお互いが大切な仲間であることを意識すべきで、“分断の魔の手”に惑わされないようにしてほしいのです。次は「医療のプロフェッショナルとしての意識を強く持ち、部門目標の達成を目指す。」です。一世紀に一度のウイルスパンデミックに遭遇して、私を含む職員はとても大変です。しかし、この時期に生きて働いていることを決して不幸とは思わないでほしいのです。例えば、プロの腕を磨けるまたとない機会が来たとポジティブに考えることができる職員が一人でも多く居ると嬉しいですね。もう一つの目標は、「医療安全と感染対策の基本ルールを身に着ける。」です。もちろん、当院の職員はこの基本ルールについての知識はもっていますが、忙しい時にも実行できるかどうかが肝腎なところです。苦労しながら習得したことは、しっかりと身に着いて自然に行動に表れるようになります。感染対策に限らず、技術やルールを身に着けるためのコツは“やろうとする意志と反復”だと思います。今がしっかりと身に着けるチャンスだと思えるとベストですね。やがてウイルスパンデミック終息後の時代が訪れます。今しっかりとやっておけば、終息後の時代に向けての準備が着々と進むので、後々の苦労は減ります。以上、大分医療センターの主な病院目標をご紹介します。

大分県の感染流行第4波は長期化していますが、自治体からより強力な感染対策は出されていません。当院では、コロナ専用病棟の病床利用率が100%を超えることもあり、全職員が必死に頑張っています。県内の新型コロナ感染症患者受け入れ医療機関の医療従事者

は、強い使命感を持って感染患者の治療を行っていますし、全医療機関の従事者は大変苦勞しながら働いているだけでなく、一般の県民よりはるかに強い生活と行動の自粛と辛抱を強いられています。ところが、第4波流行中のこの時期にあっても、患者の一部に多人数での会食やカラオケクラスターが原因で感染したケースが含まれているのを見ると、一部の県民と医療従事者との間に感染対策レベルに大きな格差が有る事実には驚かされました。全大分県民と医療従事者の願いは早期のウイルスパンデミックの終息であり全く同じはずで、責任を持って感染患者を引き受けるのは我々ですが、感染流行を食い止める主役は一般県民の皆様です。大分県民の皆様が、医療従事者にエールを送っていただいていることには大変感謝していますが、今しばらくの間は生活と行動の自粛を徹底していただき、オール大分県でパンデミックの早期終息を目指しましょう。私も当院の職員とともに辛抱を続けてゆきますので、何卒よろしく願いいたします。

2021年6月3日

大分医療センター院長 奈須伸吉